

令和3年度 第1回

さいたま市立高等看護学院運営委員会議事録

1. 開催場所 令和3年7月28日(水) 午前10時～11時10分
2. 開催場所 高等看護学院 3階 4号教室
3. 出席者 (委員) 8人
細沼 寛(委員長) 桐澤 重彦 飯島 武 徳本 弘子 早坂 直子
堀之内 宏久 安西 由紀江 星野 公男 長谷川 幸恵 【敬称略】
(事務局)
小泉事務長 大貫主幹 松本教務主任 大小島教務主任
欠席者 (事務局)
玉野教務主任
4. 議 題 報告事項
(1) 令和2年度学校評価について(概要説明)
(2) 令和3年度学院運営目標について
(3) 令和3年度学校の現状報告
1) 学生現状報告
2) コロナ禍における学校運営について
(4) 令和4年度カリキュラム改正について
5. 公開・非公開
の別 公開
6. 傍聴人 なし
7. 会議資料 (1) 令和3年度第1回さいたま市立高等看護学院運営委員会式次第
(2) さいたま市立高等看護学院運営委員名簿
(3) さいたま市立高等看護学院運営委員会規定
(4) 令和3年度第1回運営委員会資料
8. 問合せ先 保健福祉局 保健部 高等看護学院
電話 048-873-0281

1 開会	(司会進行・事務局 小泉)
2 委員長挨拶	(細沼委員長)
3 委員紹介	(事務局 小泉)
4 議事	(事務局 小泉) <さいたま市情報公開例第 23 条に基づく公開、傍聴者の確認。 事務局より、傍聴者ない旨報告。>
5 報告 事項 (1) 説明	(事務局 大貫) <報告事項 (1) について説明。>
質疑	(桐澤委員) 「IX. 施設設備」のところで昨年度も話があったが Wi-Fi が導入されたことは非常に良い。学生が研究や学習効果を上げるために今後「文献検索システムの導入」とあるが、現在は学校にいる間に学生はどのように文献検索をしているのか。 (事務局 松本) 学内にいる間は図書室の本を使い調べ学習をしている。現在、図書室の利用時間や貸し出し方法を、学生が利用しやすいように改善しているところである。また Wi-Fi がもっと使用できるようになれば、最新のものをパソコンで検索でき、学生の学習効果が得られるのではないかと期待する。 (桐澤委員) 学生は、携帯電話で検索することが普通となっている時代に、それができなくて図書館で本から検索させるのも、普段体験できないような経験なのである意味、辞書を引くというのは非常に勉強していく上で大切なことである。ただ疑問に思った時に持ち帰らないで、できればその時点で自分の調べた知識と教員からの知識と合わせてインパクトを与えるような教育をすることで疑問が解消されて後に残る。 (長谷川委員)

<p>事項（2）説明</p>	<p>図書室にあるパソコンはインターネットに繋がっているので、そこからの検索はできる。ただ文献検索用のシステムの契約については、予算のこともあるので検討はしているが、現状はできていない。</p> <p>（安西委員）</p> <p>コロナ禍の中での学生生活というところで「VI. 学生生活の支援」ですが、中途退学者と休学者はここ数年で増加しているのか、またコロナ禍で影響を受けているのか。</p> <p>（長谷川委員）</p> <p>特に増加しているわけではない。ただコロナ禍で先が見えないと学生は感じている気がする。月1回、カウンセリングの先生をお願いしているが、学生の利用が多く、現在月2回に増やしている。1回に2名の相談となっているが、急遽相談をしたいという学生もいるため、その場合は、時間を延長して相談にのってもらっている。</p> <p>（徳本委員）</p> <p>コンプライアンスに対する教育というところで、ICTが盛んとなる一方で情報のリテラシーが重要である。学生は意識していないところで、法令を破ってしまう可能性も考えられる。ICTと合わせてどのようにしているのか。</p> <p>（長谷川委員）</p> <p>入学時に必ず情報漏洩について話をしている。また各学年実習の前にも患者の情報管理について話をしている。</p> <p>実習記録についてもパソコンの使用はせず手書きとしている。また、実習記録を現在持ち帰りとしているが、今後も情報管理の強化をすると共に、実習記録の持ち帰りについては検討していきたい。</p> <p>（事務局 小泉）</p> <p><報告事項（2）について説明。></p> <p>（事務局 大貫）</p> <p><報告事項（2）7. 外構工事の修正設計の実施について説明。></p> <p>本来であれば昨年度、学院の前の建物の解体工事が行われる予定であったが、コロナの関係で後ろ倒しとなっている。旧病院の方と合わせて今年度から来年度にかけて工事が進む予定である。目標として</p>
----------------	--

質疑	<p>は、令和5年度には終了して学院の前に駐車場ができることになっている。</p> <p>(徳本委員)</p> <p>1. 質の高い学生の確保というところで、コロナ禍で人を集めるのは難しい状況だったと思う。大学ではホームページ等で学生の生活を動画で流したりして、遠くにいても見られるように説明会を行っていた。ICTを活用して人を集めても良いのではないか。</p> <p>(長谷川委員)</p> <p>今後、ホームページの内容も含めて検討していく。</p> <p>(徳本委員)</p> <p>学習支援で、これからのカリキュラムでは実習の到達目標が、実践能力になっているので、学生がどれだけ知識を使えるか、またその状況をどれだけ読めるか、推論できるかというところをサポートしていかなければならない。それを担任が行うのか、アドバイザーが行うのか。また、普段の授業の実践能力に向けてのサポートは誰が行うのか。</p> <p>新しいカリキュラムだと、持っている知識を実践力としてその能力を使うとあるので、病院の指導者の役割も大きいと思う。実習指導者にどのように臨床推論をさせるのか、学生とどう関わって欲しいのかということを確認しておくといよい。</p> <p>(長谷川委員)</p> <p>実習では各領域の担当者が数名いるので、そこで集まり実習の推論をどのように行っていくか検討している。学生には中間と最終という形で自己評価を付けてもらい、担当者から評価を返し課題を出している。それを会議の中で共有し、次に繋げていくようにしている。</p> <p>コロナ禍で臨地実習に行けていないが、病院とは年1回実習に関して打合せをしている。また、統合実習では病院のスタッフの方に来てもらい、直接学生に指導をしていただいている。実習に行けないから病院のスタッフと関わらないということではなく、そこで指導をもらい課題を見つけていくという方法を昨年度はしている。今年度も同様に考えている。</p> <p>新カリキュラムでは、臨床判断をしていくために実習に行く前に、学内で観察や症状等の推論をシミュレーションで学んでから臨地に行くような形をとりたいと考えている。</p>
----	--

<p>事項(3)(4)説明</p>	<p>(徳本委員)</p> <p>エコ活動のところで、大学ではウェブ上で資料を配信することで学生が自分でダウンロードしたり印刷したりできるので、用紙の削減ができた。</p> <p>(長谷川委員)</p> <p>当校は対面授業を継続している。そのなかで、資料を配布せずPowerPointのみで授業を行う講師もいるが、資料を配布しないとついていけない学生がいる。そのため用紙の削減が難しい状況なので、カラーコピーや両面印刷で枚数を減らすことで少しずつではあるが削減をしていこうと考えている。</p> <p>(事務局 松本)</p> <p><報告事項(3)(4)について説明。></p> <p>資料の訂正として2か所あり。</p> <p>「令和2年度学校の現状報告」ではなく、「令和3年度」とする。</p> <p>「3 2022年度カリキュラム改正について」の埼玉県への書類提出予定は2022年12月末ではなく、2021年10月末である。</p> <p>追加として「6)学校説明会・高校の進路指導教諭との懇談会について」では7月18日(日)の参加人数はAM59名(内26名同伴者)、PM61名(内25名同伴者)となっている。また、高校の進路指導担当教諭の懇親会では4校4名の教諭の参加があった。</p> <p>(細沼委員長)</p> <p>只今の報告は、次第の(3)と(4)を含む内容ということでよろしいか。</p> <p>(事務局 松本)</p> <p>はい、(4)の報告も一緒にさせていただいた。</p>
<p>質疑</p>	<p>(徳本委員)</p> <p>カリキュラム改正のところで、1年生で病態だけというのは、理解するのが難しいと思う。疾患については「理解する」までではなく、知っているレベルで、看護を考えさせ知識をどのように使うかに繋がられるのではないか。</p> <p>実習については1時間あたり45分になっているところでは、自己学習や復習が入っているから実質の時間が短くなっていると思う。そ</p>

うならば何を学習して、何を復習するのかを学生が理解できるように明確にしておくとうい。

コミュニケーション能力は、様々な対象と関わる中で必要な能力である。授業の中でも学生間でコミュニケーションが取れるような組み立てにされると良いと思う。

ICTは先程も話をしたが、倫理問題と情報スキルの両方を考えなくてはならず、矛盾する内容となってしまうので難しい。しかし、将来的に地域で働くためには、医師からの指示や指導、データなどをその場で確認することになるので、現場で活用できる能力を持っておかなければならない。

多職種連携も科目とすることは難しいが、病院では実際に行っているため、実習の項目に入れて臨床の場でどのように連携しているのかを学ぶことができる。また、専門職以外にも地域のボランティアの方や教育関係の方など、これから地域で活躍するときには一般の市民の方々との関りも視野に入ってくる。授業だけではなく実習の中にも取り入れていくと良いのではないかとと思う。

(長谷川委員)

実習の中には、多職種連携は入れている。昨年今年も基礎実習のところでは、病院実習に行けないため病院のスタッフの方にビデオで撮っていただいて、薬剤師や放射線技師がどのような仕事をしているのか、ビデオを見ながら説明をしてもらうなど工夫している。

(堀之内委員)

資料1の説明としては「教育内容等の見直しのポイント」の部分が今まで話しに出てきたところになるのか。

(長谷川委員)

本日、資料1としてお配りした「看護基礎教育検討会報告書の概要」カリキュラム改正に向けて【看護師】の部分に、どのようなものが必要になるのかということが書いてある資料である。総単位数が97単位から102単位と増える。ICT化についてやコミュニケーション能力の強化など問題点が入っている。この内容に従ってカリキュラム改正に向けて動いている。資料についての説明不足があった。

(堀之内委員)

「教育体制・教育環境等の見直しのポイント」に・情報通信技術 (ICT)

6 閉会	<p>の進展等の変化に伴い、遠隔授業等の実施が可能であることの明記。というところがあり、これが今日の「令和3年度学校の状況報告」の3の1)にあるICT化に向けてのタブレット導入などの検討を行っていく。ということなのか。</p> <p>(長谷川委員)</p> <p>その通りである。しかし、まだICT化に向けてはきちんと整っていない部分がある。一部授業で遠隔授業を行ってくださる先生もいる。また、特別講演などZOOMを使って行なったが、まだ一部分での活用となっている。</p> <p>(細沼委員長)</p> <p>(事務局 小泉)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
------	---